

様 発信 2020年7月 「えらぶ年寄り組」代表 山口英昌

下記は、2020年度環境省コロナ対策助成事業に応募した申請書です。

とても助成金が獲得できるとは思えませんが、採択の如何にかかわらず、プロジェクト自体は少しずつでも実施して行こうと考えております。

一口で言えば、自然資産を活用して、新たなエコツアー（修学旅行、研修旅行含め）を商品化し、島を活性化しようとするものです。

「えらぶ年寄り組」が手掛けてきた①「ボランティア体験・学習キャンプ」を充実し「生物多様性保全・体験エコツアー」として有料化する、②「里めぐり」を旅行会社と提携する・・・などエコツーリズム事業をオール口永良部島で進めようとする内容です。

商品化にあたって、障害となるのはフェリー太陽の欠航です。これを避けるために、屋久島の自然保護団体とコラボして進めることでブレイクスルーしようかと相談中です。良く口永良部島に来ていただいている大学・専門学校の学生さんにも手伝っていただければ、鬼に金棒です。興味のある皆さんにもよろしくお伝えください。

「えらぶ年寄り組」の活動はHPをご覧ください。

「えらぶ年寄り組」ホームページ<http://kuchinoerabu-jima.org/senior/>

国立・国定公園への誘客の推進と収束までの間の地域の雇用の維持・確保事業費等補助金

国立・国定公園への誘客の推進事業実施計画書

事業名	屋久島国立公園口永良部島における動植物保全推進活動の成果を活用したサステイナブル・エコツアーによる離島再活性化
国立・国定公園名 及び実施地区	屋久島国立公園（口永良部島）

[本事業の目的]

申請者「えらぶ年寄り組」は、2012年の発足以来、口永良部島の動植物を調査・保全し情報発信する活動を行ってきた。国立公園やユネスコエコパークの「自然を暮らしに活かす」理念を地元島民の責務として実践するために、「ボランティア体験・学習キャンプ事業」を2016年に立ち上げた。

「キャンプ事業」の参加者は、無料で宿泊して、①エラブオオコウモリの生息調査、②希少ラン類の探索・保護、③ノヤギやヤクシカの生息実態調査、④林床植生調査と獣害防止など保全活動をボランティアで手助けする。宿泊費無料で国立公園に滞在し、学び楽しむことができる。一方、主催者の「えらぶ年寄り組」は、保全活動の人手を確保でき、双方が補完しあえる事業であることを特徴としている。さらに2019年には、申請者は屋久島里めぐり推進協議会による「里めぐり（口永良部島）」事業に参画し観光客を受け入れてきた。

ところが、2020年初頭に発生した新型コロナウイルス感染症パンデミックにより、これら「えらぶ年寄り組」の活動は中断した。それにもまして深刻なことは、来島する観光客が減少し、民宿経営が圧迫される事態を招いたことである。ただでさえ噴火災害の影響を受けている離島口永良部島の経済は深刻な状況に陥った。

そこで本事業では、これらの事態を回避するために、屋久島国立公園・口永良部島において島民が行ってきた動植物の保全推進活動を活用し、観光客に、国立公園の豊かな自然を楽しみながら、生物多様性保全を体験的に学習することができるエコツアーを策定するとともに、ツアー実施の環境を整備する。

具体的には、これまで申請者が無料で実施してきた「ボランティア体験・学習キャンプ事業」を発展的に改組・有償化し、新たに「生物多様性保全・体験エコツアー事業」を立ち上げる。加えて、「里めぐり」事業を実施している屋久島里めぐり推進協議会と連携して、「夜の里めぐり」ツアーを提案するなどして、新規エコツアー商品を創成する。

本事業の目的は、新型コロナウイルス感染症拡大が収束するまでの間の地域雇用を維持・確保し、コロナ禍により減少した観光客の回帰を図り、宿泊経営を再興して、島の経済の再活性化につなげることを第一義とする。同時に、全島が国立公園である口永良部島の生物多様性保全推進と啓発に資することを目的とする。

[本事業の概要]

本事業では、上記目的を達成するために、次のようなツアー商品を策定するとともに、ツアー実施を円滑に運ぶための環境整備を行う。その上でツアーを実施し、次年度以降を見据えた宣伝活動を行う。

(1) 口永良部島における動植物保全推進活動の位置づけの再検討

本事業は、申請者「えらぶ年寄り組」が、屋久島町、屋久島環境文化財団、環境省などの事業委託や助成金を受けて実施してきた「動植物保全活動」を基盤にして構成するものである。そこで、事業策定に当たって、保全活動の位置づけや対象、手法などを再検討するため、関係機関と意見交換し既存する保全活動の活用指針を設定する。

(2) エコツアー商品の創成とコンテンツ策定と実施

保全推進活動の活用指針を踏まえて、エコツアー商品の創成とコンテンツ策定を行う。

2-1) 生物多様性保全体験ツアーの創成と実施

これまで「えらぶ年寄り組」が実施してきた「ボランティア体験学習キャンプ事業」を発展的に改組・有償化し、新たに「生物多様性保全・体験ツアー事業」を立ち上げる。宿泊には、民宿と借り上げキャンプ場（小屋）を利用する。

表1 生物多様性保全体験ツアーの対象と内容

ツアー名	対象	内容
生物多様性保全体験ツアー	社会人	参加者は「えらぶ年寄り組」が実施する生物多様性保全活動で体験的に生物多様性を学ぶとともに、国立公園の豊かな自然を楽しむ。フェリー欠航の対策に、屋久島のNPO団体と連携する。
	学童・生徒・大学生	
	修学旅行・企業研修	

生物多様性体験学習テーマと内容の当初案を表2にまとめた。コンテンツは、関係機関と協議した新指針に基づいて再検討する。

表2 生物多様性保全体験ツアーの体験テーマと内容

	体験テーマ	内容
A	エラブオオコウモリ調査・観察	夜間観察会や学習会
B	ウミガメ観察	観察会、学習会 漁師会（漁親会）と連携した観察会
C	ヤクシカ・ノヤギ調査・観察	夜間調査・観察会。猟師会と連携しワナ猟とヤクシカ・ノヤギ解体利用の実習・体験
D	希少ラン類調査・観察	調査、観察会、学習会
E	火山と共生する暮らし・火山学習	2015年大噴火を映像で紹介し、火山活動や火山と共生する暮らしや歴史を紹介する。
F	植樹・林床植生調査	エラブオオコウモリ被食樹の植樹活動、林床植生保全

2-2) 「里めぐり」関連ツアーの創成と実施

屋久島里めぐり推進協議会が開催する集落案内型の「里めぐり（口永良部島）」を担うとともに、エラブオオコウモリや都会では見られない星空を楽しむ夜間開催型「里めぐり」を協議会と連携して創成し実施する。

また、協議会がツアー会社と連携して開発した「里めぐり」を組み込んだパック旅行商品に、「口永良部島里めぐり」を組み込む方を検討する。

表3 里めぐりツアーの種類と内容

ツアー名	種類	内容
里めぐりツアー	集落案内型（既存）	集落をめぐり、火山と共生する暮らしや歴史を紹介
	夜間型（新規）	エラブオオコウモリ観察や都会では見られない星空を観望する。
	パックツアー型（新規）	旅行社のパックツアー商品の一部に「里めぐり」を組み込んだツアー。屋久島で始まったので口永良部島版を開発する。

(3) エコツアー実施のための事前準備

1) 教材作成

火山噴火時の対処方法や感染症予防策のマニュアルや、参加者に注意する冊子や、保全活動の意義を説明した動植物の観察ガイドなどを作成する。

2) 人材養成研修

観光客受入れ関係者のニーズを聞き取り、接客スキルの向上を目した研修会を実施し人材養成を図る。

3) 視覚情報媒体の整備

エコツアー参加者だけでなく、来島する観光客を対象とした動画を作成し、教材に用いるとともに、観光センターや口永良部島資料館でプレゼンテーションに供する。
エコツアーで使用する映像媒体、ホームページの作成

4) 受け入れ施設的环境整備

①観光案内センターの整備

観光案内センター内に「里めぐり」受け入れコーナーを設置・充実する。

②「口永良部資料館」を整備し、エラブオオコウモリなどの展示コーナーを充実する。

③キャンプ場（小屋）の整備と移動式天文台（小屋）作成

5) モニターツアーの実施

コロナ対策を万全にしたうえで、2泊3日のモデルツアーを実施する。屋久島などの子供たちや生徒を対象にした「生物多様性保全体験ツアー」と、来島している観光客を対象とした「夜の里めぐり」ツアーを実施し、参加者や保護者からのアンケートを分析して問題点を洗い出し、次年度以降に備える。

(4) 新型コロナウイルス対策

モデルエコツアー実施に先立ち次のようなコロナ対策を立てる。

1) ツアー実施時のコロナ対策案の策定（再掲）

2) 3密を避けるエコツアーのマニュアル作成

3) コロナ対策用の衛生資材の購入・整備

[ワーケーション事業との連携、アドベンチャーツーリズムやサステイナブルツーリズムへの該当]

ツアー実施に当たっては、島民の参画や雇用促進を進めるが、特に次世代を担う子供たちに国立公園の生き物に触れてもらい体験的に生物多様性保全の意義を啓発する。自然観察時の動植物の生態紹介、観察ルールなどを記したパンフレットや映像を活用したり、エラブオオコウモリ観察では生態への影響を極小化するために暗視スコープを利用することで地域の環境社会及び経済の影響を低減し、自然環境を持続的に保つことができるようにし、サステイナブルツーリズム事業であることに配慮する。

[地域経済の再活性化]

事業主体は、地元の自然保全団体である「えらぶ年寄り組」が担う。

1) 民宿や漁師会、猟師会、婦人会との連携によるツアー内容の充実を図る。

2) 地元ガイド協会や屋久島の自然保護団体と連携し、「修学旅行生」を誘致する。また、協会が実施する「里のエコツアー」などへコンテンツを相互提供し、オール口永良部島体制の中で観光客の増加を図り、来島・交流人口増大に寄与する。

3) 本事業は、口永良部島の動植物の保全活動を活用してエコツアーを策定・実施するもので、自然資源やその魅力を最大限に活用する点に特徴がある。自然保全しつつ、その自然を暮らしに活かす事業として、持続的な経済発展を目指す。

[地域における適切な事業体制の確保]

申請者はすでに、環境省のグリーナー事業やエラブオオコウモリ保全推進事業、屋久島環境文化財団の助成を受けた動植物の保全・調査活動や「ボランティア体験・学習キャンプ事業」、屋久島町のウミガメ調査・監視業務、屋久島里めぐり事業推進協議会の「里めぐり」事業を実施してきた実績があり、それを本事業の基盤としている。屋久島町や関連団体とは、今後の連携体制のスムーズな構築が見込める。

[自然環境の保全]

本事業で策定したエコツアーは、申請者が従来実施してきた動植物の保全事業が基盤となっている。国立公園の自然資源を守ると同時に自然資源を活用し、観光客の集客につなげ地域活性化に資することを特徴としており、環境保全に配慮した事業として構成されている。全島が国立公園とユネスコエコパークに指定されている島の地元島民として「自然を暮らしに活かす」、「環境を保全する」などの理念を実践する事業である。

[目標とする成果]

(1) 目標とする成果

- 1) 若い世代への生物多様性の啓発
- 2) キャンプ、里めぐり事業による民宿宿泊客の増大
- 3) キャンプ指導や語り部などを担う人材の育成と就業促進
- 4) 地元ガイド協会や屋久島の自然保護団体と連携して、修学旅行生を誘致する。ガイド協会が実施する「里のエコツアー」などへのコンテンツ相互提供による島内事業促進

(2) 数値目標

これまで実施してきたキャンプ事業では、ピーク時150人・日、昨年度は30人・日であった。生物多様性保全体験ツアーでは、2泊3日10名計10グループ（延べ300人・日）を目標とする。修学旅行では4泊5日10名5グループで（延べ200人・日）を見込む。また、パックツアー型「里めぐり」事業では、30人5グループ（延べ150人・日）を目標とする。

[活動の効果]

エコツアー実施により下記のような波及効果が見込める。

- 1) 次世代を担う子ども達・学童・学生などへの、国立公園の意義や生物多様性の啓発
- 2) 民宿への宿泊客増にとまなう、雇用回復と地域経済の再活性化
- 3) キャンプ指導・語り部としての人材養成と雇用増。

[地権者等との調整状況]

策定したエコツアーでは、国立公園特別地域や、史跡のある民間所有地への立ち入りが予定されるので、環境省や地権者との話し合いを進めている。

[事業実施体制]

「えらぶ年寄り組」が実施主体となり、公的機関の指導の下で、地域内の事業者である口永良部島ガイド協会、猟師会、漁師会、婦人会など地元団体と連携し、オール口永良部島体制を組む。公的機関との連携体制は前項に記載した。実施体制の説明図を資料1として添付した。

[事業実施スケジュール]

実施スケジュールは別紙に資料2として添付した。

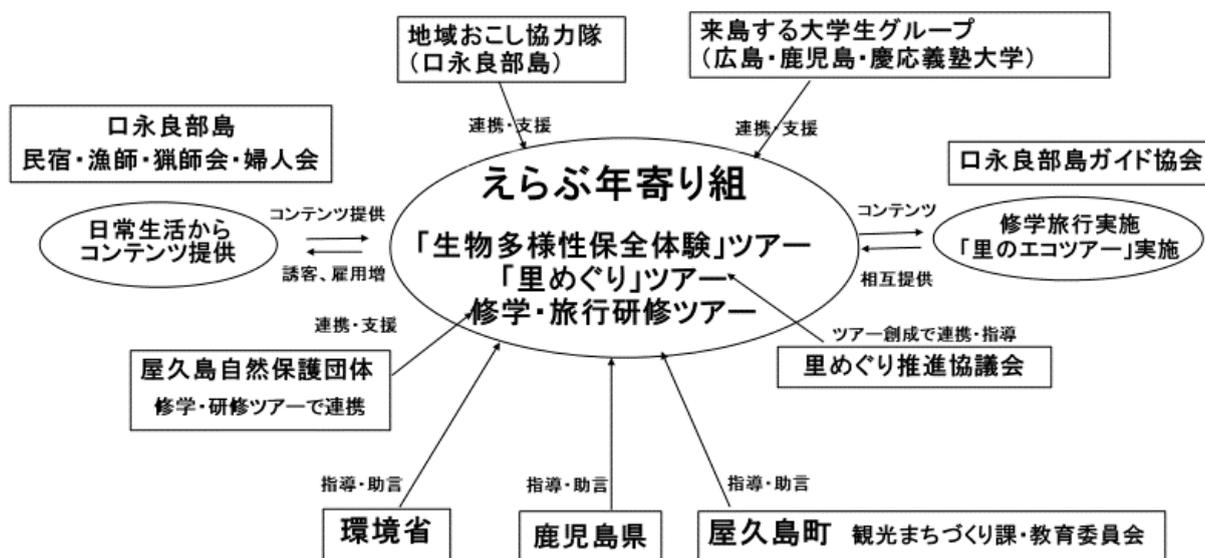
[自然公園法の手続き]

本補助事業の一環として国立・国定公園内に工作物の設置や設備設置等を実施する場合、自然公園法第10条に規定された国立公園事業に係る手続き、法第20条及び法第21条に規定された特別地域及び特別保護地区にかかる手続き、若しくは法第33条に規定された普通地域における届け出の手続きを要する可能性があるため、本補助事業申請前に必ず、国立公園については所管する自然保護官事務所等へ、国定公園については所管する都道府県等へ照会し、手続きが必要かどうか、また、工作物の設置や設備設置等に関して留意すべき事項等について確認してください。

確認後 記入

資料 1

実施・連携体制の概念図



地方公共団体や関係団体、地域事業者との連携

本事業は、

環境省のグリーナー事業やエラブオオコウモリ保全推進事業、屋久島環境文化財団の助成を受けた動植物の保全・調査活動や、屋久島町のウミガメ調査・監視業務、屋久島里めぐり事業推進協議会の「里めぐり」事業、財団の助成を受け実施してきた「キャンプ事業」などが基盤となっている。これら活動と公的機関の連携を継続し、支援と指導を受けることで、コロナ禍で影響を受けた島民の雇用、島の経済復興を回復・再活性化するための連携体制を確保する。

島内体制としては、ガイド協会、民宿、漁師会、猟師会、婦人会など島民に加え、地域起こし協力隊や毎年のように来島する大学生グループとともに全島体制を構築する。

資料 2

エコツアー策定、事前準備と実施スケジュール

年月	備考
令和2年7月	動植物保全推進活動の位置づけの再検討
	エコツアー創成、里めぐり協議会や地元団体との協議
令和2年7月	ツアー教材作成
令和2年8月	キャンプ施設の充実・整備
令和2年9月	「観光案内センター」の一部を整備
令和2年9月～	ホームページ、SNS活用
	パンフレット作成
令和2年9月～12月	「里めぐり」語り部・キャンプ指導者養成
令和2年10月	エラブオオコウモリ資料・展示用スペースの整備
令和2年12月	コウモリ募金活動の実施
～令和3年2月までに	ツアー創成と実施

資料 3

表 今後の実施予定の課題と内容

		テーマ	内 容
2	①	動植物保全推進活動の位置づけの再検討	ツアー将来像提言 プラン作成
7	⑫	エコツアー創成	里めぐり協議会との相談
10	⑬	キャンプ施設の充実・整備	内装、塗装など
12	⑬		携帯案内ボード作成
15	④	生物多様性保全体験ツアー 社会人	プラン作成
16	⑤	生物多様性保全体験ツアー 子ども対象	プラン作成
22			
23	⑳	ホームページ、SNS活用	ホームページ作成 助言
24	⑳		SNS 活用指導、発信
25	⑳		4K ビデオカメラで取材
26	④⑤ ⑬⑭ ⑮	ツアー宣伝パンフレット作成	検討・作成作業 「里めぐり」パンフレット永良部島版作成など
29	㉒	エラブオオコウモリ資料・展示用スペースの整備	デザイン、説明ボード作成、映像コンテンツ作成
32	㉒ ⑥A	エラブオオコウモリ ツアー教材	映像コンテンツ作成、ツアー教材作成
36	⑫⑬ ⑭⑮	里めぐり	語り部養成研修
39	③④ ⑤	体験ツアー指導者	養成研修
42	⑥⑪	植樹・林床植生保護募金	植樹募金プラン作成
43	⑥⑪	林床植生教材	
44	⑳㉑ ㉒	モデルツアーの実施 1	
45	⑳㉑ ㉒		
49	⑥A	夜間観察会	エラブオオコウモリ、星座
51	⑥A	移動式天文台作成	大型天体望遠鏡収納、大工工事
56	⑦B	漁師会(漁親会)広島大学と連携した観察会	魚・ウミガメ教材とビデオ制作、教材作成
58	⑧C	ヤクシカ・ノヤギ調査 猟師(猟友会)と連携	ツアー教材作成
60	⑧C	調査・観察会・学習会用	教材マップ、PP 作成
62	⑩E	2015 年大噴火を映像で紹介し、火山活動を紹	ビデオ制作
63	⑩E	火山と共生する暮らしや歴史を紹介	ビデオ、PP 教材 DVD 作成 里めぐり集落編を映像化
64	⑩	ツアー教材作成	⑩火山・暮らし

65	⑪	ツアー教材作成	⑪植樹・林床植生
66	⑫	里めぐり英語案内シナリオ作成	想定問答付き 大学生グループ
67	⑳㉑	コロナ対策	対策のマニュアル作成
69	⑮	火山噴火 安全対策	安全マニュアル作成
77	㉔	宣伝用品	ハッピーのぼり作成

資料 4

「子々孫々の口永良部島を夢見るえらぶ年寄り組」の自己紹介 (略称 えらぶ年寄り組)

(1) 設立目的

「子々孫々の口永良部島を夢見るえらぶ年寄り組(略称えらぶ年寄り組)の発足(2012年)にあたっての入会呼びかけ文は“体と口の動く人は、誰でも参加できます。そして、地区の活動とはひと味違う潤いのある活動をめざします。口永良部島の環境や生き物、歴史遺産をまもり、それらの子々孫々に伝えたいと願うとともに、日々の暮らしに忙しい働き盛りの人たちの役にも立ちたいと思います。”であった。

全島が国立公園(2007年編入)やユネスコエコパーク(2016年指定)に暮らす島民として、忙しい若い人達に代わって、①島の自然を知る、②自然を見守る、③発信する・・・を活動の中心にしている。

(2) 活動

2012年8月に発起人3名で発足した。その後、増減はあったが、現在、9名の会員で運営している。活動資金は、原則的に会員の持ち寄りや寄付とし、公共団体や財団の事業を受託したり、助成金を獲得するなどしてきた。

1) 自然を知る・見守る活動

表1 研究者の指導の下、あるいは共同で実施した調査活動

対 象	調べたこと	助言者、共同研究者
ウミガメ (向江浜)	上陸・産卵調査 (噴火立ち入り禁止 で中断)	独自調査
アオウミガメ (美浦)	水中カメラで調査	独自調査
エラブオオコウモリ	頭数、食痕調査	指導：鹿児島国際大学 船越公威氏
ヤクシカ	頭数調査	指導：北大 立澤史郎氏
ノヤギ	頭数調査	独自活動
林床植生	林床回復調査	手塚賢至氏と共同調査
タカツラン	生育調査	佐賀大学辻田有紀氏と共同調査
ツルランなどラン類及び 希少な植物(絶滅危惧種 など)	生育調査	手塚賢至氏と共同調査

2) 発信する活動

表2 情報発信の活動

	情報発信	活 動
2013	ホームページ立ち上げ 口永良部島ポータルサイト えらぶ年寄り組ホームページ 「くちのえらぶの自然」発行	学習会・見学会の実施 エラブオオコウモリ・ウミガメ上陸産卵・タカ ツルラン・ツルランなど
2016		「ボランティア体験・学習キャンプ」立ち上げ
2019		屋久島里めぐり推進協議会への加入と「里めぐり」実施

「えらぶ年寄り組」ホームページ<http://kuchinoerabu-jima.org/senior/>
口永良部島のホームページの管理・運営<http://kuchinoerabu-jima.org/>

(4) 受託した事業

表3 受託した事業

年度	受託した事業の内容	支援・助成団体
2012	「えらぶ年寄り組」立ち上げ ウミガメの生息調査	
2013	ウミガメ保護・監視業務	屋久島町
2014	ウミガメ保護・監視業務 グリーンワーカー（GW）事業 （口永良部島における動植物の生息・生育状況把握）	屋久島町 環境省
2015	GW事業（同上）	環境省
2016	GW事業（同上）	環境省
2017	GW事業（同上） 屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業	環境省 屋久島環境文化財団
2018	屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業	屋久島環境文化財団
2019	屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業 エラブオオコウモリ保全推進事業	屋久島環境文化財団 環境省
2020	エラブオオコウモリ保全推進事業	環境省

(5) 活動成果・報告

表4 活動の成果

1	えらぶ年寄り組, 平成26年度環境省グリーンワーカー事業, 「口永良部島における動植物の生息・生育状況把握事業報告書」
a	平成26年度, 2015
b	平成27年度, 2016
c	平成28年度, 2017
d	平成29年度, 2018
2	えらぶ年寄り組, 「屋久島町ウミガメ保護監視業務報告書」, 2013, 2014
3	小林 宏至・後藤 利幸（えらぶ年寄り組）, 「大隅諸島口永良部島におけるウミガメの産卵・利用・文化」, 日本ウミガメ会議、うみがめニューズレター, 98, 2-6, 2014

4	えらぶ年寄り組, 「前期高齢者ががんばる—口永良部島の自然を大切に作る活動やっています—」, 第2回国際照葉樹林シンポジウムin屋久島, ポスター発表, 2014
5a	えらぶ年寄り組 (後藤 利幸, 山口 英昌), 「水中カメラによる口永良部島のアオウミガメ生息調査」, 屋久島学ソサエティ第3回大会ポスター報告, 2015
b	えらぶ年寄り組 (後藤 利幸, 山口 英昌), 水中カメラによる口永良部島のアオウミガメ生息調査, 屋久島学, 3, 133-136, 2016
c	山口 英昌, 後藤 利之, 木村 祐貴, 坂上 嶺, 佐々木 司, 白井 和紗, 小林 宏至, 「口永良部島・北部入り江におけるアオウミガメの回遊生態」, 日本ウミガメ会議, うみがめニュースレター, 104, 2-6, 2016
6a	えらぶ年寄り組 (後藤 利幸, 山口 英昌), 「ボランティア体験・学習キャンプの開催—キャンプ開催による生物多様性の保全と啓発活動in口永良部島」, 屋久島学ソサエティ第5回大会ポスター報告, 2017
b	えらぶ年寄り組 (後藤 利幸, 山口 英昌), 「ヤクシカの食害から口永良部島の林床植生を守るために」, 屋久島学ソサエティ第5回大会ポスター報告, 2017
c	えらぶ年寄り組, ユネスコエコパーク地元 (口永良部島の島民) としての活動報告—「ボランティア体験・学習キャンプ」参加者ととともに—, 屋久島学ソサエティ第6回大会, ポスター報告, 2018
d	えらぶ年寄り組 (山口英昌), 和名「エラブオオコウモリ」に至る道—学術研究先達の足跡をたどる—, 屋久島学ソサエティ第7回大会, ポスター報告, 2019
e	えらぶ年寄り組 (山口英昌), 「ボランティア体験・学習キャンプ」が目指すもの, 屋久島学ソサエティ第7回大会, ポスター報告, 2019
7	えらぶ年寄り組, 「屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業報告書」, 屋久島環境文化財団, 2017, 2018, 2019
8	辻田 有紀, 手塚 賢至, 後藤 利幸 (えらぶ年寄り組), 第2回「国際照葉樹林サミットin屋久島」ポスター発表, 2014
9	徐 慧, 辻田有 紀, 深澤 遊, 阿部 晴恵, 馬田 英隆, 手塚 賢至, 後藤 利幸 (えらぶ年寄り組), 牧 雅之, 遊川 知久, 「菌従属栄養植物タカツルランの菌根菌の多様性」, 日本菌学会第58回, 大会ポスター発表, 2014
10	辻田 有紀, 手塚 賢至, 後藤 利幸 (えらぶ年寄り組), 「屋久島と口永良部島の照葉樹林内の菌共生に関する保全と研究」, 平成25, 26年度屋久島環境文化財団助成事業報告書, 2014, 2015
11	えらぶ年寄り組, 令和元年度環境省「エラブオオコウモリ保全推進事業」報告書, 2020

(6) 会員・役員名簿 令和2年6月10日現在

表5 会員・役員名簿

	氏 名	住 所	電 話	役 職
1	山口英昌	屋久島町口永良部島1232-3	090-5886-2537	会長
2	後藤利幸			副会長
3	山 子			会計
4	石	以下 省略		監査